

◆ 今週のコメント

- ・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(男性, 50歳代)あります。推定感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は11例になっています。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は, 1.49(61例)で, 第30週(7月22日～7月28日)以降, 13週連続で過去5年平均値を上回っています。本年, 京都市衛生環境研究所で分離・検出した手足口病由来のウイルスは, すべてコクサッキーウイルスA6(CA6)で, 13例となっています。(10月24日現在)
- ・ 水痘の定点当たり報告数は0.83(34例)で, 前週(0.46, 19例)より増加し, 過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では, 1歳が9例(26.5%)で最も多く, 次いで, 2歳 7例(20.6%), 3歳 6例(17.6%)となっています。例年, 12月に向かって報告数が増加しますので, 今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.07(44例)で, 前週 1.27(52例)よりも減少したものの, 過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類: 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例(第41週追加)【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.90	78
	② 手足口病	1.49	61
	③ RSウイルス感染症	1.07	44
	④ 水痘	0.83	34
	⑤ 突発性発しん	0.29	12
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

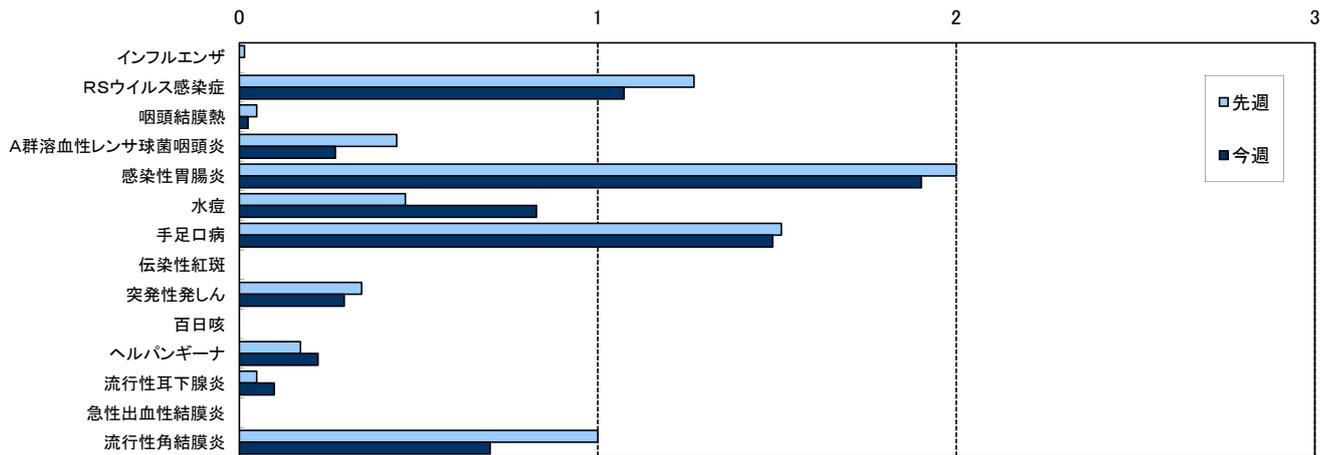
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは, 平成25年10月24日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

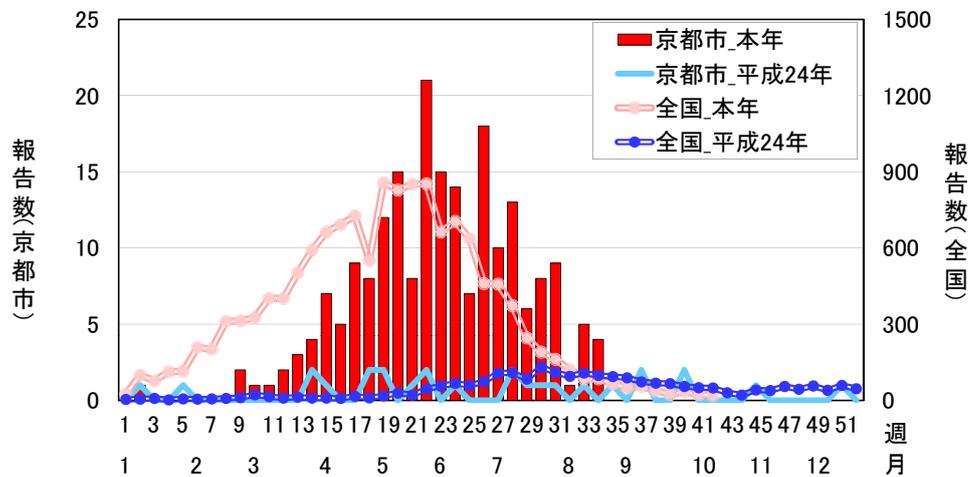
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第42週)と先週(第41週)の定点当たり報告数の比較



2 風しんの推移

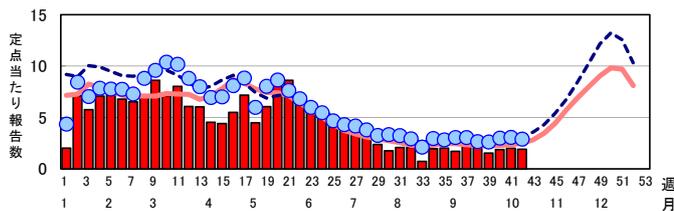
今週の報告数(累積報告数) 平成25年10月24日現在	
京都市	0例 (209例)
京都府(京都市を除く)	0例 (112例)
近畿6府県	4例 (5221例)
全国	20例 (14201例)



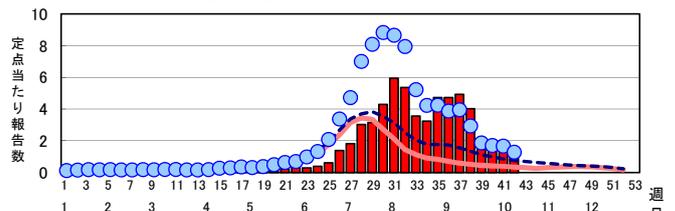
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

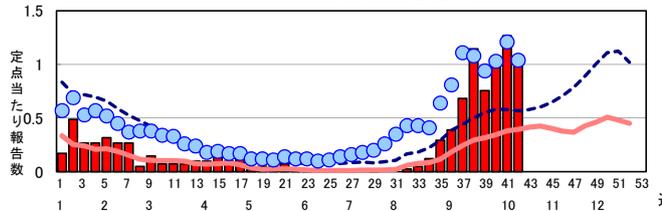
1 感染性胃腸炎



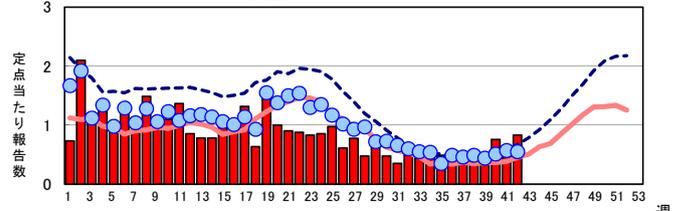
2 手足口病



3 RSウイルス感染症

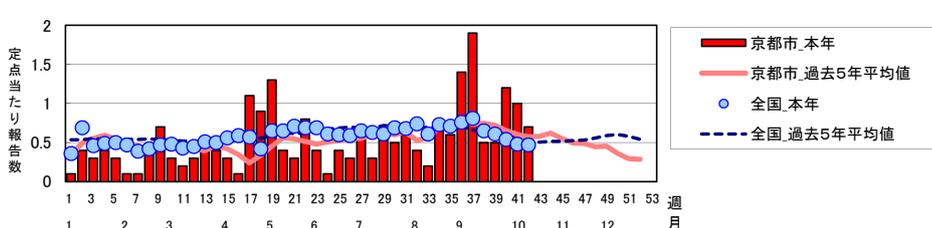


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎



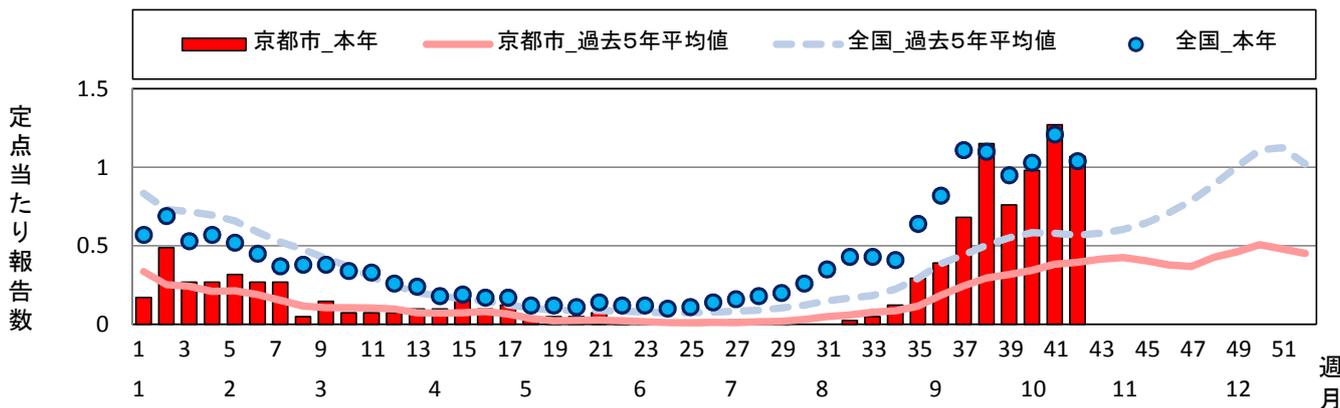
第42週(10月14日～10月20日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.07(44例)で、前週 1.27(52例)よりも減少したものの、過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多かった平成24年に次ぐ報告数となっています。全国でも前週より減少しているものの、過去5年平均値を上回る状態が続いています。

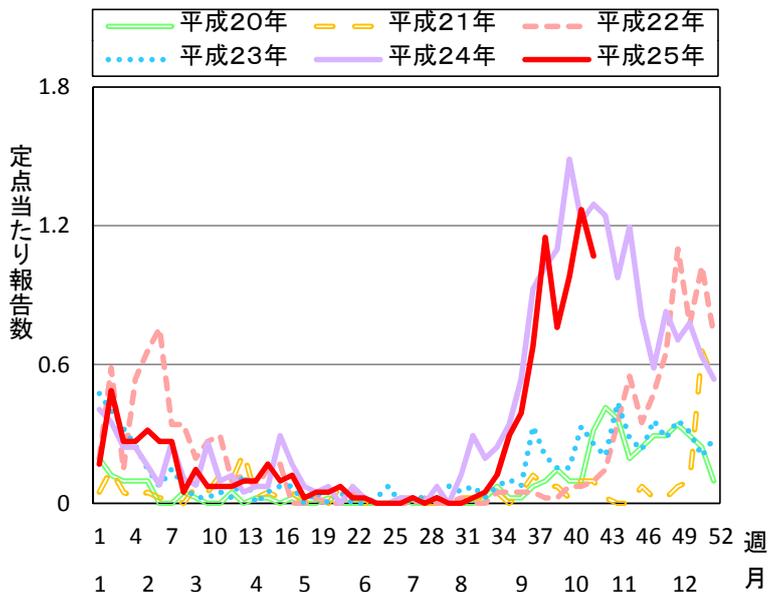
都道府県別では、47都道府県中16道府県で前週よりも増加しています。また、近畿6府県においては、3府県(滋賀県、京都府及び奈良県)で前週よりも増加しています。

年齢階級別では、1歳が16例(36.4%)と最も多く、次いで2歳 9例(20.5%)、6～11箇月 8例(18.2%)、0～5箇月 5例(11.4%)となっており、0～2歳が86.4%を占めています。

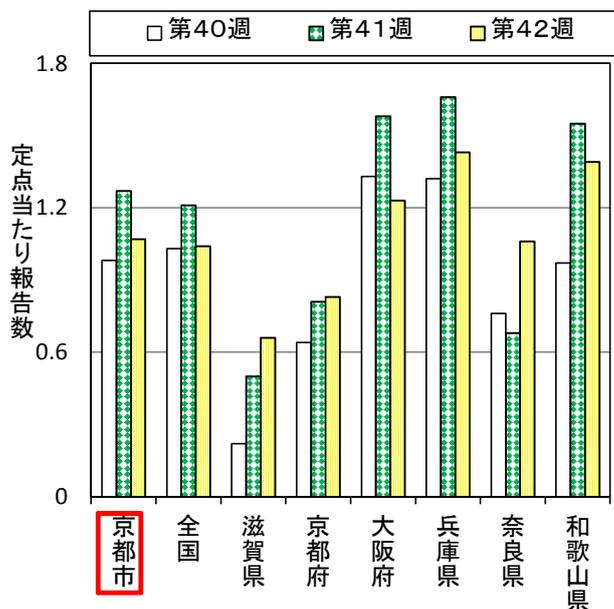
京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の定点当たり報告数の推移



京都市及び近畿6府県の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別の推移

